

## 教員一覧

(2023年7月1日現在)

### ■所長

井上 章一 風俗史

### ■副所長

フレデリック・クレインス 日欧交渉史  
松田 利彦 日朝・日韓関係史

### ■教授

荒木 浩 日本文学  
磯田 道史 日本史学  
磯前 順一 宗教学、批判理論  
伊東 貴之 中国思想史、東アジア比較文化交渉史  
牛村 圭 比較文学、比較文化論、文明論  
榎本 涉 中世国際交流史  
大塚 英志 まんが表現史、まんが創作理論、柳田國男研究  
楠 綾子 日本政治外交史、安全保障論  
倉本 一宏 日本古代史、古記録学  
タイモン・スクリーチ 江戸時代の歴史、美術史  
関野 樹 情報学  
戦 暁梅 近代日中美術交渉史  
瀧井 一博 国制史、比較法史  
安井 真奈美 日本民俗学、文化人類学  
山田 奨治 情報学、文化交流史  
劉 建輝 日中文化交渉史

### ■准教授

片岡 真伊 日本近現代文学、比較文学  
エドワード・ポイル 境界研究、文化遺産論

### ■助教

松木 裕美 美術史、芸術学  
光平 有希 音楽療法史

### ■特任助教

駒居 幸<sup>\*1</sup> カルチュラル・スタディーズ、日本近現代文学  
オリバー・ホワイト 日本近世戯作文学



\*1 人間文化研究機構 人間文化研究創発センター 特任助教  
(併任 国際日本文化研究センター 特任助教)

## 交通案内



### 阪急桂駅(西口)から

- 京都市バス「西5」「西6」で約30分
- 京阪京都交通バス「20」「20B」で約20分
- タクシーで約15分

### J R桂川駅から

- ヤサカバス「1」「6」で約30分
- タクシーで約20分
- JR桂川駅までは、JR京都駅から大阪方面行き(普通)に乗車約5分

### J R京都駅(烏丸中央口)から

- 京阪京都交通バス「21」「21A」「26」で約45分

バスはいずれも「桂坂中央」行き、「桂坂小学校前」又は「花の舞公園前」下車で徒歩約5分

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地  
TEL (075) 335-2222(代) / FAX (075) 335-2091  
<https://www.nichibun.ac.jp>

日文研 検索



表紙デザイン:

国際日本文化研究センター「外像データベース」より



International Research Center for Japanese Studies  
NICHIBUNKEN PROSPECTUS  
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国際日本文化研究センター  
概要 2023



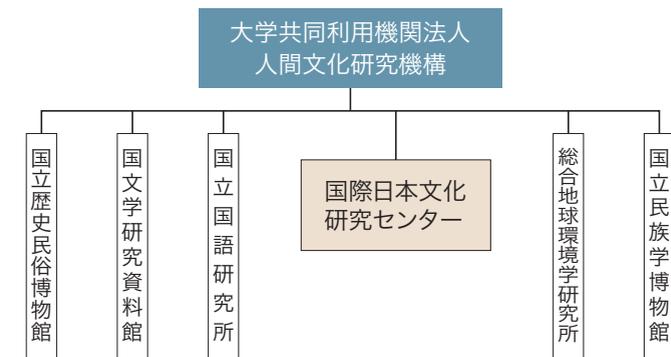
## 日文研とは

国際日本文化研究センター(日文研)は、日本文化に関する国際的・学際的な総合研究と世界の日本研究者に対する研究協力・支援を行うことを目的として、1987年に設置されました。

日文研は、日本の文化・歴史を国際的な連携・協力の下で研究するとともに、外国の日本研究者を支援するという大切な使命をもった大学共同利用機関です。この使命を推し進めるために、国内外から参加する多様な専門領域の共同研究員による、分野横断的な日本文化に関する研究を展開しています。

また、海外から人文・社会科学等の諸分野の研究者を招いて最新の成果や情報に基づく自由で創造的な研究活動を行うとともに、その情報を発信するなど、日文研は、日本研究の国際的拠点としての役割を担っています。

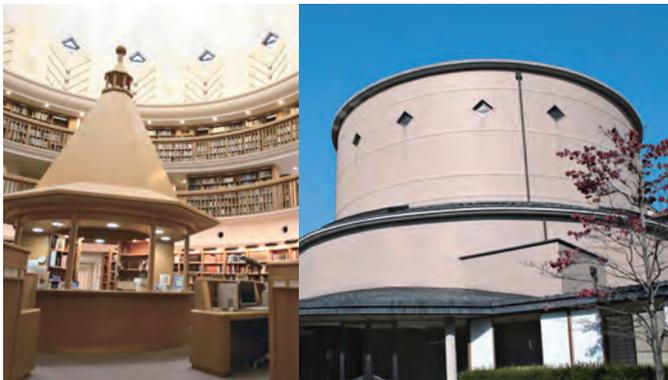
## 組織



## 日文研の役割

1. 日文研は、国際的・学際的・総合的な観点から、日本文化に関する研究課題を設け、国内外から参加する様々な分野の研究者による共同研究に取り組んでいます。
2. 共同研究を、「自然観と人間観」「文化と権力」「大衆文化研究の展開」という3ユニットに分類し、柔軟な組織・運営により推進しています。
3. 世界各地の日本文化の研究者・研究機関に、研究情報を発信するとともに、実情に応じた研究協力を行っています。
4. 研究成果は、和文・英文による図書・学術雑誌、講演会、シンポジウムなど様々な形で広く国際社会に提供しています。
5. 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻国際日本研究コース博士後期課程では、次代の研究者養成に努めています。また、国内外の大学院生・留学生を受入れて指導しています。

## 所蔵資料

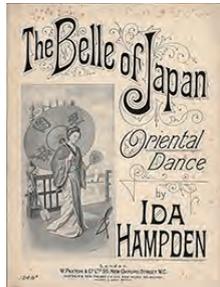


### 図書館

日本研究に必要な各種資料を幅広く収集し(図書資料約60万冊)、国内外の研究者の利用に供するとともに、様々な情報を提供しています。利用者は図書を自由に手にとって閲覧することができます。外部の方でも、学術研究・調査等を目的とする場合であれば、事前申請のうえ閲覧が可能です。



稲生家妖怪傳巻物(抜粋)  
〔日文研所蔵〕



The Belle of Japan  
〔日文研所蔵〕

### データベース

所蔵する日本研究資料、所員の研究成果をはじめ、他機関所有の日本研究資料などのデータベースを作成しており、現在45種類をウェブで公開しています。  
※2023年7月1日現在



近代日本美術展絵葉書データベース

## 活動

### 研究活動

#### 共同研究

日本文化に関する国際的・学際的なテーマに基づく総合研究を、国内外の研究機関や研究者と協力しながら行っています。既存学問では周辺化されたテーマも取りあげ、また、グローバルな観点から他地域との交流や影響関係を理解することで、人文学のフロンティアを開拓する斬新かつ堅固な研究を目指しています。

#### 基幹研究プロジェクト

人間文化研究機構が第4期中期目標期間(2022年度～2027年度)に掲げるプロジェクトです。

日文研では、『国際日本研究』コンソーシアムのグローバルな新展開『国際日本研究』の先導と開拓事業を通じ、「国際日本研究」コンソーシアムをグローバルに展開するとともに、その代表幹事機関として「国際日本研究」の深化を進めます。

#### 「国際日本研究」コンソーシアム

「国際日本研究」や「国際日本学」を掲げる大学院・研究所等を連携させ、海外研究者ネットワークと結びつけることを目指した我が国初の試みです。学術的共同研究、国際ワークショップ等を通じて学問的基盤を構築しながら、若手研究者の育成にも努めています。

### 研究協力活動

#### 国際研究協力

「海外シンポジウム」を含めた国内外での研究交流ネットワーク形成のほか、来日中の外国人研究者による発表・交流の場として「日文研フォーラム」等の各種レクチャー、セミナーを開催しています。

#### 資料の収集・整理・提供

収集する主な資料には次のようなものがあります。

- ・外国語で書かれた日本研究図書
  - ・日本研究関連の文献目録及び映像・音響資料
  - ・海外における日本研究者・研究機関に関する情報
- これらはデータベース化され、広く公開されています。

#### 学術交流協定

国内外の大学・研究機関との組織的共同研究及び研究者交流を推進するため、学術交流協定を随時締結しています。

### 普及活動

#### 研究成果の出版および情報発信

『日本研究』、Japan Review、「日文研叢書」、Nichibunken Monograph Series、「共同研究報告書」、『日文研』などを「日文研オープンアクセス」で公開しています。

#### 社会貢献

学術講演会、一般公開、日文研―京都アカデミックブリッジ、日文研×読売Bizフォーラム東京などを開催しているほか、地域の小学校への出前授業も実施しています。

◆詳細は日文研ウェブサイトでも発信しています。

## 共同研究

### 2023年度 共同研究一覧

(2023年5月1日現在)

研究課題	研究代表者	
植民地帝国日本とグローバルな知の連環	教授 松田 利彦	
ソリッドな〈無常〉／フラジヤイルな〈無常〉 ―古典の変相と未来観	教授 荒木 浩	
口と鼻―人体と外界の接合域の日本文化史	教授 磯田 道史	
胎内から墓場まで―現代における死生観の解明	教授 安井 眞奈美	
町とモニュメント ―視覚文化史から見た日本の都市計画と記念	教授 タイモン・スクリーチ	
「島」国日本を問う	准教授 エドワード・ポイル	
日本型教育の文明的位相	教授 瀧井 一博	
貴族とは何か、武士とは何か	教授 倉本 一宏	
比較のなかの「東アジア」の「近世」 ―新しい世界史の認識と構想のために	教授 伊東 貴之	
日文研所蔵井上哲次郎関係書簡の研究 ―国民国家の始発と終焉	教授 磯前 順一	共同研究員 菊田 真司
西洋における日本観の形成と展開	教授 フレデリック・クレインズ	
「戦後」と「近代」を超えて ―1970年代日本の国家と社会	教授 楠 綾子	
冷戦期における日本外交 ―「平和国家」の構築を中心に(1952-1972)	外国人研究員 黄 自進	
近代東アジア文化史の再構築 I ―19世紀の百年間を中心に	教授 劉 建輝	
文明としてのスポーツ／文化としてのスポーツ	教授 牛村 圭	
接続する柳田國男	教授 大塚 英志	
帝国日本と冷戦下アジアの文化権力 ―崔承喜舞踊の表象と交差するイデオロギー	客員教授 朴 祥美	教授 松田 利彦



最近の日文研出版物



鼎談「アナログとデジタルのはざまに迫る」  
(一般公開オンライン動画)

## 2022年度 主な活動の記録

2023年度の活動についてはお問い合わせ下さい。

\*印は一般の方もご参加可能なイベントです。

	活動一覧
2022年 5月	「明石博高(あかし ひろあきら)―京都近代化の先駆者」 (開催記念シンポジウム)*
6月	第271回日文研木曜セミナー「書評 安井眞奈美著『狙われた身体―病いと妖怪とジェンダー』(平凡社 2022年)」
7月	第248回 Nichibunken Evening Seminar “The Serious and the Shallow: The Task of Translating MISHIMA Yukio’s <i>Life for Sale</i> (“ <i>Inochi urimasu</i> )” 第344回日文研フォーラム「漢学者山本梅崖と中国人の知的交流」*
8月	第5回日文研―京都アカデミックブリッジ「時代劇をつくろう 太秦の力」*
9月	第2回日文研×読売Bizフォーラム東京 「サロン音楽に聴くジャポニスム ミカドからチョーチョーさんまで」* 第272回日文研木曜セミナー「国際化(脱日本化?)する日本政治史研究」
10月	第249回 Nichibunken Evening Seminar “A Dialogue between Two Japanese Studies Institutes” 「お話と演奏 耳で感じるジャポニスム」(公開講座)* 第345回日文研フォーラム「アメリカから福島原発事故を考える」*
11月	桂坂オータムフェスタへの「化物尽絵巻(レプリカ)」の出演、 「怪異・妖怪伝承データベース」の紹介(展示)* 第3回日文研×読売Bizフォーラム東京 「サンフランシスコ講和条約から70年～戦後外交史の残された課題」* 第273回日文研木曜セミナー「比較文学で明治期陸上競技を読みなおす」 日文研一般公開「アナログ×デジタル@日文研」* 「海外日本研究機関責任者会議」(シンポジウム)
12月	第161回日文研レクチャー「自然と建築」* 日中妖怪研究シンポジウム(2022年度)* 第250回 Nichibunken Evening Seminar “Theories of Embodiment in Japan: Introducing New Research from Ghent University” 「宗教とジェンダーの最前線」(シンポジウム)
2023年 1月	第346回日文研フォーラム 「二宮金次郎像から考える台湾教育史」* 「グローバルヒストリーとしての東アジア史の再発見」(シンポジウム) 第274回日文研木曜セミナー「縮小する社会での文化創造を考える」
2月	第251回 Nichibunken Evening Seminar “Placing War in Ukraine: Comparisons and Vantage Points” 第71回日文研学術講演会 「和暦をコンピュータで扱う」国際聖地としての日光東照宮* 第6回日文研―京都アカデミックブリッジ「東シナ海が生んだ京文化」* 「日本文明の再構築―岩倉使節団150周年に寄せて」(シンポジウム)
3月	第4回日文研×読売Bizフォーラム東京「『2023年頃』―曖昧な時間をどう表現するか―進化するデジタル・ヒューマニティーズの世界」*